

令和3年度第1回富山県公立大学法人評価委員会 議事録（概略版）

- 1 日時 令和3年7月13日（火） 10:15～12:00
- 2 場所 富山県立大学射水キャンパス 9階特別会議室
- 3 出席委員
 - ・林 幸秀 [(公財)ライフサイエンス振興財団理事長] ※委員長
 - ・福田 敏男 [名城大学大学院理工学研究科教授、名古屋大学名誉教授]
 - ・藤重 佳代子 [(株)マーフィーシステムズ代表取締役社長]
 - ・堀 仁志 [堀税理士法人代表社員・公認会計士]
 - ・山下 清胤 [(一社)富山県機電工業会会長・三協立山(株)相談役]
- 4 会議の概要
 - ・司会が開会を宣し、経営管理部長より開会の挨拶
 - ・司会より、林委員長に議事の進行を依頼し、以後の進行については委員長が行った。
 - ・委員長より、(評価の対象である)法人が本日の委員会に最後まで同席することについて、委員の了承を得た。

議事1 令和2年度の業務実績に関する評価について

<法人説明>

資料1、資料2などにに基づき、令和2年度の業務実績の概要、法人側の自己評価について説明

<事務局説明>

参考資料1などにに基づき、評価委員会の評価(案)を取りまとめるにあたっての手続き、評価の際の参考となる事項等について説明

(委員長)

大学事務局からの説明について、各委員の意見、質問等を求めるとともに、参考資料1の各項目別評価案として仮にAとなっているものについて、このままで可とするか、あるいは評価を上げるもの、下げるものはあるか、決定していきたい。

最初に財務についての評価をいただきたい。

(委員)

財務的には、経常利益で1億2,400万円となっており、しっかりとした利益を確保している。入札等での経費の節減、外部資金の獲得への着実なチャレンジが要因と考えられる。高く評価をしたいと考える。

(委員長)

今の財務諸表のコメントも含め、全体として、大学の評価をしていきたい。意見はあるか。

(委員)

アクティブラーニングや授業改善など、教育の改善に力を入れているが、物理的スペースの利用頻度はどうか。利益を有効に活用し、もっとそのようなスペースの整備に使ってもよいのではないか。

(法人)

アクティブラーニングの施設については、他大学を視察・調査し、中央棟の設計に活かした。

一教員としての立場で言うと、実績から考えると場所・利用機会とも、もっとあってもいいと思う。コロナの影響でなかなか十分に学生が集まれないということもあり、本来の機能が果たしているか検証は難しいところ。

(委員)

コロナ禍でますますバーチャルの環境や、コンピューター、インターネットを使ってコミュニケーションをとる方法が進化している。そういったところで富山県立大学ならではの新しいプレゼンテーションの仕方を構築することであるとか、北陸3県から皆さんが見に来るようなものを、うまく利益を使って作り、情報発信ができればよいのではないかと考える。

科学研究費補助金の採択については、109件あったということ、それに教員の半分ぐらいの方が関わっておられるということで、素晴らしい。その中で、国の教育関係の大型プロジェクトに参画するにあたり、これからは資金をうまく獲得するようなチームを作るとよいのではないか。何か今考えていることがあれば教えてほしい。

(法人)

これまで、看工連携のチーム、DXのチーム、医薬品チームが動いている。今後、カーボン系とデジタルを結び付け、環境に対してどうやって貢献するかというようなことも行うチームを作ろうとしている。それらについて研究費を獲得していくため、今、動いている。

(委員)

看護学部ができたスケールメリットを活かして、工学部と協同で行う取組みはあるか。

(法人)

看護学部はニーズをもっており、工学部はそれを解決するためのシーズを持っている。例えば、授業で、脳波がどうやって取れるのかという原理を工学部の先生が看護の学生に教えたり、あるいは研究レベルで、看護の先生の視線の位置を工学的手法でバーチャルリアリティーで追って行って、どのように看護をしたらいいのかというものを提示する、さらに今トライしようとしているのは、遠隔医療、地域住民のヘルスケアなどで、看工の連携というのは非常に面白い切り口だと思っている。

(委員)

ぜひそこは大いに伸ばすようにしていただきたい。

(委員長)

研究資金採択の件数が増えたことはわかったが、金額的にはどうか。現在の評価のAを上げるか下げるかにも関係するためお聞きしたい。

(法人)

年度ごとに増減があるが、令和元年度、令和2年度の外部資金の受入れについては、それぞれ5億円前後である。

(委員長)

あまり変わらないということか。

(法人)

若干増減はあるが、最近2年間は5億円前後ということで、その前よりは若干増えている。

(委員)

学生確保に向けた戦略の展開の計画の進捗状況等を見ると、いろいろなことをやっているが、認知度の調査は行っていないのか。

(法人)

県内については、高校に行って得た情報としては、認知度は上がってきており、十分と考える。

また、中京地域からも受験生が多いということで、中京や長野の高校へ行って得た情報としても、富山県立大学は年々伸びてきているというコメントを得ている。ただ、数としてはどうかという調査はしていない。

志願倍率の上昇が、認知度向上の指標の一つになると考えている。

(委員)

倍率はどのようになっているか。

(法人)

工学部は、令和元年度3.1倍だったものが、令和2年度4.3倍と上がっている。一方、看護学部については、4.3倍だったものが4.1倍と、若干ポイントを落としている。

(委員)

年度計画などに認知度の向上を図るとあるので、認知度向上の効果の確認ができるようにしないといけないのではないかと。特に、ここは自己評価がⅣになっているところでもある。

(法人)

今後の改善事項として検討させていただきたい。

(委員)

財務諸表について、貸借対照表等でも、損益計算書でも、前年対比などが記載されていた方がよいのではないかと。口頭で説明はあり、後ろのページには書いてあるが、表からは一切見えない。

また、標記が元号だと分かりづらい。できるならば西暦で示していただきたい。

(委員長)

財務諸表の記載については、次回以降は直さなければいけないと思う。西暦と年号の話については、役所だからなかなか西暦1本にするというのは難しいのではないかと思うが、どうか。

(事務局)

行政文書は、基本的に元号で表記するというのが原則だが、中には、経年変化を見るときに分かりにくいということで、西暦で表記することもある。今後、どのような表記がいいのか検討させていただきたい。

(委員長)

説明が分かりやすいよう、考えていただきたい。ほかに何かあるか。

(委員)

財務諸表について、7ページの注の10、臨時利益の説明がよく分からない。損

失の見返りを利益として計上する、債務を臨時利益として計上するなどがあるが、
どういふものか。

(法人)

大学特有の会計処理になる。購入した際に、一旦、見返負債というところに購入と同額の数字が入る場合がある。その購入したものを廃棄した場合に、見返負債の分の費用を収益として上げるという形になっている。

(委員)

財務諸表は非常にすばらしい。科研費の努力もたくさんされているようである。
まず、DX教育研究センターというものを設置されるということで、設備についてどのように考えていかれるのかお聞きしたい。

次に、くすりのシリコンバレーとやまの件について、看工連携は本当にすばらしい取組みだと思う。マッチングについて、具体的にどのような取組みをしているのか。

次に、受託研究、共同研究、寄附金に関して、地域連携センターの役割が非常に重要になっていると思うが、地域連携センターの方が年配の方で、あまりIT分野に詳しくなかったという記憶があるので、若手の採用を検討いただければと感じている。

最後に留学生について、看護学部と工学部とでどちらに多いのか、教えていただきたい。

(法人)

まず、DXについては、デジタルを利用した実践教育だという位置づけで、それぞれ専門性を持った学科専攻の学生に、世界あるいは生活、富山県を変えていくといったような実践教育を実施しようと進めている。そのために、社会的な課題がどこにあって、それをどのように解決するかということ、企業や社会学の先生も含め、産学官連携でやっというのがDX教育研究センターである。

次にくすりのシリコンバレーについては、国のプロジェクトとして、県を中心に、富山大学、薬事総合研究開発センター、富山県立大学の3者に加え、富山県薬業連合会にも加わっていただいで推進している。積極的なマッチングの重要性も認識しており、これからやろうとしているところである。

次に、地域連携センターについては、今はメンバーが代わっている。おっしゃるとおり、地域連携センターというのは非常に重要で、企業の相談を待つだけでなく、こちらから企業に提案しながら、マッチングを図っていくことが重要だと思っている。

留学生については、ほとんどは大学院の学生で、看護学部はまだ大学院ができていないので、ほとんどが工学部、工学系大学院である。

(法人)

補足すると、くすりのシリコンバレーについては、内閣府からの10年間のプロジェクトで、最初の5年はお金を頂くが、あとの5年は自走という形になっており、現在は3年目が終わって4年目に入ったところ。大学や企業にそれぞれメリットとなること、また、大学間の連携などができることを目指している。

地域連携センターのコーディネーターは、任期に合わせ今年代変わった。年代的には60歳を過ぎた方が多いが、採用に当たっては、特許、知財が分かる方、またDXに関してもある程度分かる方をお願いしたいということで面接をして採用している。コーディネーターということで、人と人をつなぐことに長けていることも重要と考える。

留学生では、中国の遼寧省と、4年生と修士を通じて5人、交換留学を毎年行っている。昨年はコロナの影響で来られなかった。中国人の方が多いが、ヨーロッパ、タイ、インドネシア、学外研究員ではインド、バングラデシュの方もいる。やはり今のところは工学部が中心となっている。

それから、科研費については、本学はここ何年かで、先生方の多くが若い先生に入れ替わっているが、科研費等の獲得金額が、ベテランの先生の時から変わっていないというところに注目いただきたい。若い先生なので、あまり大きなプロジェクトを単独では取れないが、それぞれが頑張って資金を獲得しており、これからの期待してもらえるとありがたい。

(委員長)

意見は概ね発言されたかと思うが、これからは、これまでの質疑を踏まえて、全てAとなっている仮置きの評価について議論を行いたい。

(委員)

財務内容の改善に関する目標達成については、県立大学は健全なチャレンジ精神を持ってやっている。S評価でどうか。

(委員長)

財務に関する目標をSにしたらどうかという意見があった。順番にやっていると、まず教育について、いかがか。

(委員)

このままでいいのではないかと思う。

(委員)

財務に関しては、数値でも非常に明確であり、Sというのは非常に納得が得ら

れるかと思う。その他については、例えばK P I がよく数字が取れていないとか、いろいろあると思うので、どれがSになるかはちょっと分からない。

(委員)

研究については非常に成果が出ているように見えるので、Sでもよいのではないかと思う。

(委員長)

委員の一人としてコメントさせていただくと、1番の教育は、項目全体は多いが、100%以上になっている部分も7つあり、Sとしていいのではないかと思う。

Sについての意見をまとめると、1番の教育、2番の研究、5番の財務についてSという意見が出ているが、いかがか。

(委員)

教育も研究も非常によかったので、評価している。先ほどAでいいのではと申し上げたが、Sでも問題ない。財務は立派なので、もちろんSで結構である。

(委員)

1番の教育に関しては、項目は多いがIVの評価の数も多いので、Sでいいのではないかと思う。

2番の研究については、30項目あってIVが1つだけであり、この数字だけ見るとそれほどでもないのかなと思う。

(委員)

教育の中に研究が入っていたりするので、研究そのものの評価を出しづらい。外部的な予算ということであれば、評価Aということになっていいと思う。教育の中に研究費がという意味では、1番と5番がSでもよいかと思う。

(委員)

先ほどの意見のように、30項目の中でIV評価が1つだけだからというのも客観性があると思う。ただ、研究分野の中身についてはよく分からないので、その分野の専門の委員で判断いただければどうか。

(委員)

富山県立大学の研究を過去ずっと見ていると、若い人たちが随分頑張ってきておられるし、科研費も上がっている。それから、富山県立大学の先生方は国内の会議のいろんな重要なポジション、国際会議におけるいろんないいポジション、いい授業を確かにやっている。これは研究と成果の出所でもあり、評価している。

評価はSでいいのではないか。

(委員長)

私も委員として述べると、Sのほうがいいと思う。理由としては、科研費の予算額について、金額は変わらないが、先生方が代替わりしていたにも関わらず、新しい先生方が必死に科研費を取りに行っているケースもあり、非常にちゃんとやっておられるという話を聞いて、研究のほうも相当頑張っているということで、Sでいいのではないかと思う。

(委員)

研究の中身までは分からないので、委員長で判断いただければよいかと思う。

(委員長)

では、今までの質疑を踏まえ、Sのほうが妥当だと思うので、恐縮だがSにさせていただきます。

確認すると、1番の教育、2番の研究、5番の財務についてはS、それ以外はAのままということとしていただきたい。

これを念頭に事務局において記述式のものを作ってください、次回8月の委員会で議論したい。

議事2 中期目標期間の業務実績に関する評価実施要領について

<事務局説明>

資料3などに基づき、中期目標期間における業務実績に関する評価実施要領(案)について説明

(委員長)

これは、今までのやり方を基本的に踏襲してやっていくという考え方だと思うが、意見はあるか。

(各委員)

意見なし。

(委員長)

それでは、基本的には今の事務局の考え方に従って進めたいと思う。

では、本日の議事はこれで終了する。